報

内細菌「ブラウティア菌 弘大など 岩木健診で検証

ローラを形成する細菌グル

プと、内臓脂肪との一貫 た相関は確認できなかっ

全体の割合が高かった。年

原因となり病気を悪化させ 高血圧などの生活習慣病の 臓脂肪症候群)は、糖尿病、

たが、門よりも小さい分類

が示された。

を取り除いても同様の傾向

県は大都市部よりメタボの る。弘大の研究によると、本

か1・5倍多いとされる。 研究を総括する中路重之

か」と語っている。

腸内細菌は最近日本でも

増やす提案を弘前から世界 が少ない人に対して、菌を 命科学部)は「 "痩せ菌 "

へ発信できるのではな

齢、喫煙、飲酒などの要因

ピューターなどを活用して

「門」という腸内フ

査。内臓脂肪が少ないグル

プほどブラウティア菌の

ブラウティア菌の割合を調

東京大学のスーパーコン

に分け、腸内細菌に占める

る可能性が高いという。 菌が内臓脂肪を抑制してい 究で報告されているため、

菌は、肥満や糖尿病の新た

研究員)は「ブラウティア

な指標となる可能性もあ

メタボリック症候群(内

る」と語った。

前多隼人准教授(農学生

よって男女別に4グループ

さらに内臓脂肪の面積に



ない。しかし、ブラウティ

いメカニズムは分かってい が多いのかなど、その詳し

る。今後、岩木健康増進プ 習慣病と深いかかわりがあ 特任教授は「メタボは生活

であるBMIとの関係も報 告されているが、大人数を

野。腸内細菌と肥満の指数 注目を集めている研究分

ロジェクトで、どんな食事

ア菌が、肥満を解消する働

直樹氏

のか、脂肪が少ないから菌

菌が脂肪を抑制している

きがある酢酸・酪酸といっ

増えるのかを明らかにし をとればブラウティア菌が

た「短鎖脂肪酸」をつくり

の3~11%程度を占める主

の研究で分かっている。弘大研 菌が減っていることもこれまで 究チームは、加齢とともにブラ

ンブラウティア菌全ての

がんの患者では、ブラウティア

四。肥満を解消する働きがある

内臓脂肪面積とブラウティア菌存在比の関係性 ブラウティア菌の存在比

※研究グル

酢酸や酪酸をつくり出すことが

知られ、糖尿病、肝硬変、大腸

認している。

ウティア菌が減少することも確

対象にした調査は行われ

いなかった。

グルー1

ブラウティア菌の存在比 8642 0

詳細に検討した研究は世

10 7(%)

の関係性を男女別に分けて した。腸内細菌と内臓脂肪 脂肪が少ないことを確認

後、機能性食品の開発を視

界初。研究グループは今

に受診した20~76歳までの

いることが判明した。

出すことが、これまでの研

ーション学研究講座、花王

、アクティブライフプロモ

1001人の健康データを

基に検証した。

学院博士課程の大里直樹氏 しきたし」と記し、同大大